

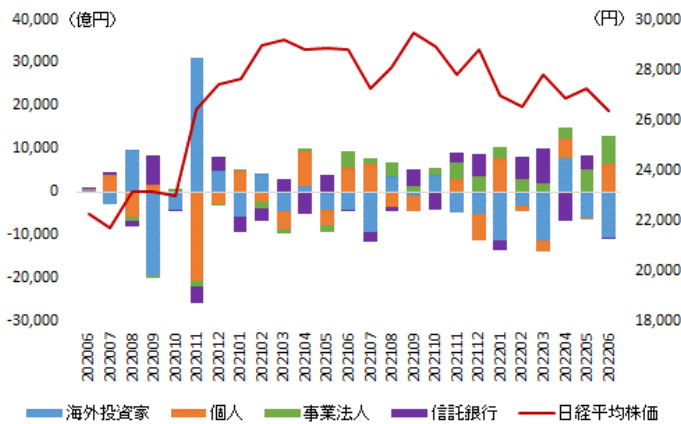
# 研究員 の眼

## 海外投資家が大幅に売り越し ～2022年6月投資部門別売買動向～

金融研究部 研究員 森下 千鶴  
(03)3512-1855 mchizuru@nli-research.co.jp

2022年6月は上旬こそ日経平均株価が2万8,000円を超えるまで上昇したが、その後は一時2万6,000円割れするなど急落した。下旬は2万7,000円台まで回復した局面もあったが、月末は再び下落し、2万6,393円で終わった。主な投資部門別で見ると、海外投資家が大幅に売り越し一方で、個人と事業法人が買っていた。

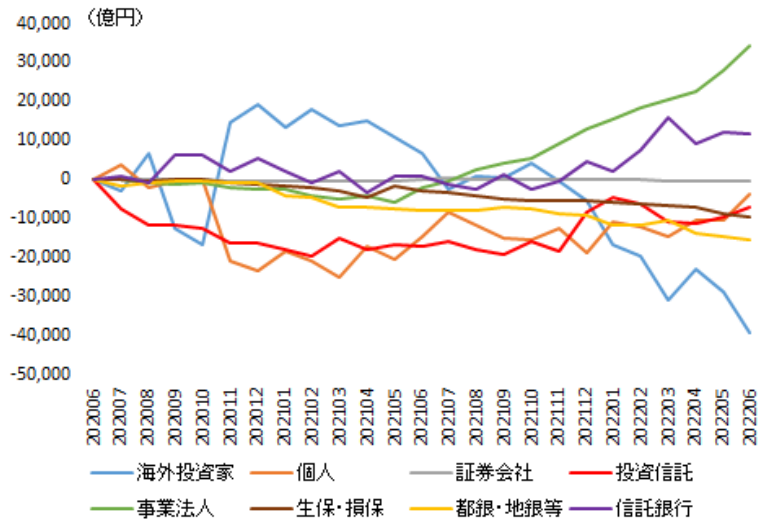
図表1 主な投資部門別売買動向と日経平均株価の推移



| 単位: 億円<br>(億円未満切り捨て) |           | 海外投資家   | 個人     | 証券会社 | 投資信託   | 事業法人  | 生保・損保  | 都銀・地銀等 | 信託銀行   | 日経平均株価<br>(円) |
|----------------------|-----------|---------|--------|------|--------|-------|--------|--------|--------|---------------|
| 月次                   | 202201    | -11,086 | 7,998  | 135  | 3,814  | 2,400 | -304   | -2,461 | -2,542 | 27,001.98     |
|                      | 202202    | -3,002  | -1,546 | -96  | -1,912 | 2,901 | -418   | 82     | 5,343  | 26,526.82     |
|                      | 202203    | -11,314 | -2,515 | -248 | -4,263 | 1,969 | -421   | 1,411  | 8,213  | 27,821.43     |
|                      | 202204    | 8,001   | 4,466  | 156  | -801   | 2,411 | -428   | -3,330 | -6,797 | 26,847.90     |
|                      | 202205    | -6,049  | -17    | -230 | 1,992  | 5,332 | -1,514 | -875   | 3,086  | 27,279.80     |
|                      | 202206    | -10,407 | 6,690  | 4    | 2,532  | 6,371 | -967   | -1,105 | -422   | 26,393.04     |
| 週次                   | 5/30-6/3  | 6,249   | -3,538 | -117 | 238    | 1,225 | -204   | 1,666  | -3,373 | 27,761.57     |
|                      | 6/6-6/10  | 6,373   | -166   | -109 | -1,806 | 1,220 | -87    | 699    | -888   | 27,824.29     |
|                      | 6/13-6/17 | -17,181 | 10,284 | 239  | 2,213  | 2,768 | -172   | -2,909 | 1,450  | 25,963.00     |
|                      | 6/20-6/24 | -3,162  | -1,651 | -15  | 2,776  | 1,065 | -386   | -86    | 803    | 26,491.97     |
|                      | 6/27-7/1  | -2,686  | 1,759  | 5    | -889   | 89    | -117   | -475   | 1,586  | 25,935.62     |

(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計  
(資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

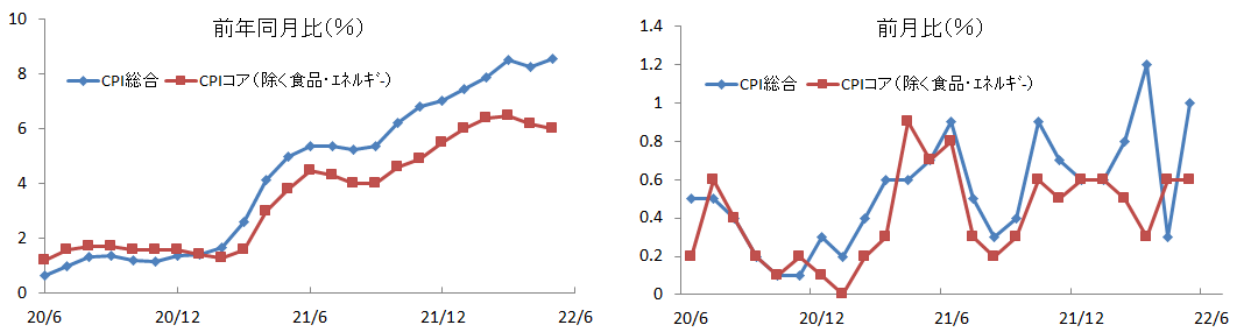
図表2 投資部門別の累積売買状況



(注) 現物は東証・名証の二市場、先物は日経 225 先物、日経 225mini、TOPIX 先物、ミニ TOPIX 先物、JPX 日経 400 先物の合計  
 (資料) ニッセイ基礎研 DB から作成

2022 年 6 月（5 月 30 日～7 月 1 日）の主な投資部門別売買動向（現物と先物の合計）は、海外投資家が 1 兆 407 億円の売り越しと、最大の売り越し部門であった。特に 6 月第 3 週（13～17 日）に現物と先物合わせて 1 兆 7, 181 億円を売り越した。その背景としては、6 月 10 日夜に発表された米消費者物価指数（C P I）が前年同月比 8.6%（予想 8.3%）、前月比 1.0%（予想 0.7%）と市場予想を上回る上昇率だったことから、早期インフレ収束期待が後退し、F R B のタカ派姿勢が強まり、金利が上昇するとの警戒感が高まったことがある。実際、14 日、15 日の F O M C で 0.75% の利上げが行われ、金融引き締めが景気を冷やすとの懸念も加わり、米国株は大幅に下落した。それに伴って日本株も売却する海外投資家が多かった様子である。

図表3 米消費者物価指数(CPI)が予想を上回り上昇

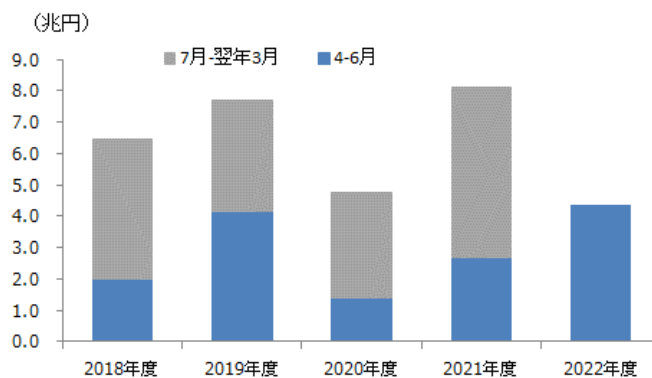


(資料) Refinitiv から作成

その一方で個人は 6 月に 6,690 億円の買い越し、日経平均株価の下落幅が 2,000 円に迫った 6 月第 3 週には 1 兆 284 億円も買い越していた。個人は従来と同様、株価が大きく下落しているときに買いを入れる「逆張り」をしていたことが確認できる。

また、事業法人は6月に6,371億円の買い越しであった。2021年6月から13カ月連続で買い越ししており、上場企業が自社株買いを積極的に行っていることがうかがえる。2022年4～6月も約4.3兆円（TOPIX構成銘柄）の自社株買いが設定されており、コロナ禍前の2019年度を超える金額が設定されている。背景には、株主還元強化と自社の株価が割安という判断があると考えられ、事業法人の買いは今後もしばらくは継続すると予想される。

図表4 4～6月の自社株買い設定額の推移



(注) TOPIX 構成銘柄  
 (資料) QUICK から作成

以上

お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。